

信仰の土着化と ナショナリズムの 相関関係

Overview

- ナショナリズムと宗教
- 近代化と信仰の「土着化」
- 総括
- 応用事例——「風の谷のナウシカ」

ナショナリズム

- 近代化の産物としてのナショナリズム
- cf. 近代以前：日蓮『立正安国論』、国学、復古神道
- 「国民は想像されたものである。というのは、いかに小さな国民であろうと、これを構成する人々は、その大多数の同胞を知ること、会うことも、あるいはかれらについて聞くこともなく、それでいてなお、ひとりひとりの心の中には、**共同の聖餐** (コミュニオン) のイメージが生きているからである」 (B.アンダーソン『想像の共同体』)。

世俗的ナショナリズムと宗教

「(世俗的ナショナリズムと宗教は) 包括的な道德秩序の枠組み、すなわちそれに所属する人々に**究極的な忠誠を命じる枠組み**を与えるという、倫理的な機能を果たす。(中略) ナショナリズムと宗教がもつ、**殉教と暴力に道德的許可を与える力**ほどに、明確に忠誠の共通様式が現れているものは、他のどこにも存在しない」 (M.ユルゲンスマイヤー『ナショナリズムの世俗性と宗教性』)。

近代化と信仰の「土着化」

- 土着化 (indigenization) とは？
- すべての外来宗教は、ホスト社会で土着化の課題に直面してきた。
- テキストとコンテキスト (文脈) の関係
- 近代における土着化は、しばしばナショナリズムと結びついた。
- 日本仏教のような伝統宗教でさえ、「ナショナルなもの」への**《再土着化》**を求められた。

総括

- 近代における土着化とナショナリズム
- 人々が生きる生活の場としてのパトリア (郷土) に張っていた**《具体的な》**根を切断し、「想像の共同体」としての国家に対し、新たに**《抽象的な》**根を張り直すプロセス (→近代日本の**「宗教」**概念)

応用事例——「風の谷のナウシカ」

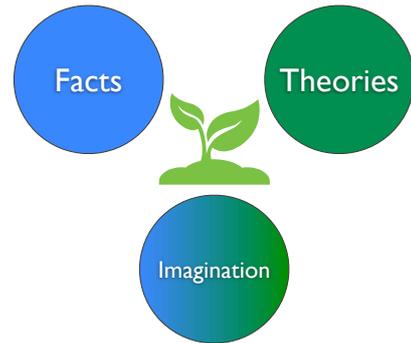


「ナウシカ」に見る比較文化

- キリスト教の終末論（黙示文学）やメシアニズムを日本文化に「土着化」
- 共通点：自己犠牲（死そして復活）
- 相違点：
 - 救世主（メシア）：男性ではなく女性。自然の「支配者」ではなく、自然の「友」。
 - 善悪の報いではなく、善悪の彼岸へ。

授業を振り返って

I	導 入	
2-7	日本宗教の形成と展開	(現代) 宗教の風景 (古代) 神々の世界 (古代) 仏教以前、仏教伝来 (中世) 平安時代の宗教 (中世) 鎌倉仏教、禅とその文化 (近世) 近世の宗教
8-14	近現代における日本宗教	宗教を規定する政治学 近代日本における政教分離の形成と構造 一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリティーク 宗教の多元化と多元主義 信仰の土着化とナショナリズムの相関関係



参考（秋学期科目）

- 「宗教と平和」（戦争・正義・平和——宗教多元社会の中で）
- 火曜日、I講時、今出川キャンパス